ファミリーのような関係

マリビック英会話教室

前身は泉公民館の市民講座で、受講生が中心となり約5年前に市民サークルとして再出発した。

講師を務めるのは、フィリピン出身で18年前に来日し、現在は自宅などで英語教室を主宰するほか、外国人の子どもに対する日本語支援活動を行うマリビック高桑さん（42）＝中央台高久。受講生たちは明るく笑顔がすてきなマリビックさんを中心に「楽しく仲良く、ファミリーのような関係」を築き上げている。

掲げる目標は人それぞれだが、共通するのは海外旅行が大好きなこと。「せっかく旅に出たら、現地の人とコミュニケーションを取りたいですよね」と話すのは、まとめ役を務める牧野早苗さん（71）＝泉玉露。マリビックさんは常々、「大切なのは文法ではなくて、単語でもいいから自分の心を伝えること」とアドバイスしている。単語を並べるだけでも意思疎通はできる、会話の流れが良ければなお良し、と。

旅先や日常生活に密着した英会話を。教室は毎回、受講生たちの楽しげな笑い声が響き渡る。

毎月第1、3火曜日の教室を楽しむ受講生たち

話の泉

【七福神にお願いしよう】

受験シーズン、神頼みをする人が多いはずだ。頼まれる神様だって〝1人〟じゃさばき切れないかも。学問の神様、天神様だって、同じことだ。

でも、数で救いの手を差し伸べてもらうには「七福神」がいらっしゃる。というわけで民間信仰の「七福神めぐり」はいい散策になるはずだ。〝7人〟とも福徳をもたらす神と伝えられ、しかも日本だけの神様じゃない。

商売繁盛の「恵比須（寿）」だけが日本で、ともに長寿授福の「福禄寿」と「寿老人」、円満度量の「布袋（ほてい）」は中国の、豊作の「大黒天」、厄よけの「毘沙門天」、紅一点で技芸・財福の「弁財天」はインドからの民間信仰神という顔ぶれだ。

日本で「七福神」とまとめられたのは室町時代だが、そのもとは中国の故事「竹林の七賢」。その後、各地で七奈

なかま

乙女あみ部

乙女が楽しい

四倉公民館の一室から少女たちのような笑い声が聞こえた。

「おしゃべりをしながら、一緒に楽しい時間を過ごしましょう」。講師の国分純子さん（鹿島）がこう優しく呼びかけると、かぎ針編みを愛する乙女たちがほほえむ。

国分さんは、パソコンのホームページで、あみぐるみ作家「ｆｕｎ＊ｆｕｎ」として活躍。ウエブ上で、あみぐるみやニット雑貨を編む楽しさを伝えている。地元の住宅展示場などで教室を開くと、多くの主婦が殺到するほど。愛好家のカリスマ的存在だ。

2年前、同公民館の市民講座の講師を担当。同サークルの前身「心和むあみぐるみ&ニット雑貨づくり講座」は主婦の心をいやす場として誕生。昨年4月に公民館を離れた。代表は瀬ん（四倉）が務めンバーは15人。み好きの主婦が

あみぐるみを手にして